

会 議 録

第3回定例会

開会 令和元年5月9日

教育委員会会議録

1 開 会 令和元年5月9日 午後3時30分

2 閉 会 令和元年5月9日 午後4時05分

3 教育委員会出席者

教育長	美馬 持仁
委員	辻 貴博
委員	藤本 宗子
委員	小林 信行
委員	河口 雅子
委員	菊池 健次

4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	東條 正芳
教 育 次 長	儀宝 修
教 育 次 長	竹内 敏
教 育 創 生 課 長	永戸 彰人
学 校 教 育 課 長	小倉 基靖
教 育 政 策 課 長	長町 哲治
教 育 政 策 課 副 課 長	中野 義英

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

《報告事項1 平成31年度徳島県公立高等学校入学学力検査集計結果について》

教育長 説明を求める。

教育創生課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

辻委員：平成31年度となっているが、平成31年ではないか。実施したのは、いつか。

教育創生課長：昨年度、平成31年の2月、3月に実施した。

教育長：平成31年度に入学する学生のための選抜という意味である。高校、大学入試では、ひとつ次の年度で表現している。

河口委員：一般選抜において、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度や、思考力・判断力・表現力を等とみることができる問題の作成ということで、今回概況に出ているが、先ほど説明にあったように、低中得点層の割合が減って、得点分布が高得点層に寄っているのはすごくよい傾向であると思う。自信がない者や実力が発揮できない者に対して、それに向けて学校が様々な取組をされてきたということで、このような結果になってきているのかと思う。また、国語の作文、書くという重要性が認知されていることは、よい点ではないかと思う。

小林委員：特色選抜で、各教科40点満点であるが、学力は40点にして、あとは特色に応じて点数が加算されて100点満点ということか。

教育創生課長：特色の場合は、学力検査以外にも個人面接、活動の記録のほか、実技

検査を実施している高校もあり、それらをトータルで考えていくことになる。点数に関しては、各学校で決めており、教科については40点満点でしている。

小林委員：40点満点にしている基準は、何かあるのか。

教育創生課長：検査Ⅰ，検査Ⅱそれぞれ各100点で行っており，合計200点で5教科で割って，各教科40点となっている。

小林委員：これに関して，変えてほしいとかの要望はなかったか。

教育創生課長：特にございません。

小林委員：標準偏差があるが，特色選抜のばらつきが少なくて，一般選抜の方がばらつきが大きい，これについての見解はどうか。

教育創生課長：先ほど委員が仰られた特色選抜は各教科40点満点というのが大きく関係している。特色選抜は40点満点での標準偏差であり，一般選抜は100点満点でのものであり，その差である。正確に比べるには，特色選抜の標準偏差に $100/40(2.5)$ を掛ける必要がある。そうすると，大体同じ値になる。標準偏差においては，特色，一般では偏りはない。

菊池委員：特色選抜で各教科40点満点であるが，出題数はどうなっているか。

教育長：教科によって違うと思う。大問，小問に分かれているものといろいろ配点にもよると思う。

教育創生課長：検査Ⅰであると，国語・社会・英語であるが，各教科大問1問ずつである。そのなかで，小問も含めると，今年度は，国語では14，5問，数学は10問となっている。各教科大問1問を作成し，時間の関係も考慮し，設問数は設定している。

藤本委員：一般選抜の概要のなかの，6ページの英語のグラフで，各得点層が平坦でなだらかになっているということは，よくできるお子さんもいるが，そうでないお子さんが多いということかと思う。全体的に上げていけるように，今後指導いただければと思う。理科もそういった傾向があるかとも思う。成績結果の概要で分析していただいているので，この点について，子どもたちが，さらにもっと勉強の成果がでるような指導をそれぞれの教科においてお願いしたい。

教育長：英語については，以前からよく指摘されるのが，ふたこぶになったり，なだらかになったりする傾向が出て来やすい教科ではある。一番よいのは，正規分布，真ん中が高くなっているのが望ましいが，難易度や配点の関係で毎年変わってきたりする。ただ，英語についてはよく似たグラフの形状なので，できるだけ正規分布に近づけられるような工夫を今後とも探っていきたい。

また、テストを変えるだけでなく、実力として分布がばらついているのであれば、授業改善等を行い、特に底上げをしっかりと行っていく必要がある。

《報告事項2 平成31年度全国学力・学習状況調査について》

教育長 説明を求める。
学校教育課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

小林委員：成績も当然大切であるが、質問紙調査の結果についても大切だと考えている。質問紙調査の結果について公表はしないのか。

学校教育課長：結果が公表された後、県の結果については分析をしっかりと行い、必要に応じて公表していこうと考えている。

小林委員：質問紙調査の分析から学校の状況を把握することにもつながるのではないのか。

教育長：その辺りのことも含め、分析をしっかりと行うことが大切だと考えている。昨年までも、顕著な課題等については県の広報紙において掲載している。特に問題があると考えられる部分については、分析をしっかりと行うことが大切だと考えている。

河口委員：今年度全国学力調査では、英語の「話すこと」調査が実施された。事前の準備が大変であったということをいろいろなところから聞いたが、実際はどうであったか。

学校教育課長：県教育委員会としても事前の準備が大変だったということを聞いていた。各市町村教育委員会と学校には綿密な計画を立てながら準備をしていただいた。事務局としても各市町村教育委員会等と連絡を取り合いながら進めていった結果、大きなトラブルがなく実施された。機器等の故障により、生徒が学力を測ることができなかったということがなく、良かったと考えている。

教育長：1月に「話すこと」調査に関する地域説明会を本県で実施し、文部科学省からも適切な情報の提供をしていただいた。

河口委員：各校の管理職の先生方も心配をしていたと思う。

辻委員：この「話すこと」調査とは、どのようなものだったのか。

学校教育課長：英語の4技能である「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」のうち「話すこと」の力を測る調査である。具体的には、各学校

のパソコン室において、生徒がヘッドセットを装着し、画面を見ながら、ヘッドセットを通して問題を聞き、マイクに向かって英語で解答するという調査だった。

辻委員：各学校で、一度に実施することができるものだったのか。

学校教育課長：問題は、1人あたり5分程度のもので、学級ごとの実施であった。学校の規模により、1つの学級が調査を行った後、順に次の学級が入室し調査を行うという方法での実施であった。

辻委員：それぞれ別の問題を使用したのか。

学校教育課長：全員が同じ問題であった。

教育長：「聞くこと」「読むこと」「書くこと」については、問題用紙に解答を記入するという方法だった。「話すこと」については、同じ内容ですが、生徒が順々に調査を受けることができるようマニュアルが示されており、適切に実施できた。

河口委員：無事に実施できたことは良かったと考えている。ただ、昨年度から、全国学力・学習状況調査の結果の公表が早くなっており、それを有効に生かしていくことが重要だと思う。生活習慣や学力について、その結果を各学校で有効に活用していただきたい。

学校教育課長：県全体の結果の分析をできるだけ早く行うが、各学校においても分析を進め、学習のPDCAサイクルに反映していただきたいと考えている。各校において、この結果を適切に御活用いただき、授業改善を進めていただきたいという方針で進めていく。

辻委員：今回の質問紙調査の中に、塾に行っているかどうかについての項目はあったのか。

学校教育課長：今回の調査項目の中にはなかった。

辻委員：以前、ある学校で英語の成績がよい生徒が多くいたが、その学校では塾に行っている割合が高いという状況があった。

学校教育課長：塾に行くと成績が上がるという状況はあると思うが、それらは、家庭での学習の状況も含めて捉えられるものと考えている。

教育長：各学校において、個々に調査等を行っているのではないかと思う。ただし、県教育委員会としては、学校教育の中で学力が定着できるように考えている。

藤本委員：現在、小学校や中学校ではALTも多くなり、英語についていいものを聞く機会が増えていると思うが、今後益々「話すこと」が重要となっていくと思う。

学校教育課長：県教育委員会としても中学校の英語の授業において、できるだけ英語を使用することを推奨している。また、「話すこと」ができるような

力をつけるよう、学習をしていくことが重要になるということだと考えている。

教育長：4技能のバランスが重要になっており、そのように大学入試等も変わってきている。語学の学習において、「話すこと」は大切である。ただ「話すこと」だけが大切なのではなく、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を含めた4技能のバランスが大切だということである。

竹内次長：中学校の英語の授業の内容についても、近年大きく変化しており、授業の中で英語で話す場面は増えてきていると思う。

教育長：4技能のバランスが大切になってきており、これまで以上に「話すこと」に関する力が求められるようになったということだと思う。

藤本委員：外国人児童・生徒も調査対象なのか。

学校教育課長：本県小・中学校に在籍しているすべての児童・生徒が調査対象となっている。

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後4時05分